

救出の最前線で

綾南中学校 三年 富崎 玲

火事というものは大昔から何度も起こり、起こる度にある人たちが食い止め続けました。その役目を果たしていたのが消防士です。消防士は、町中でよく見かけ、人気のある仕事の一つです。僕は、昨年、学年の総合学習で消防署の職場体験学習をさせていた。たまたま、そこで、たくさんの人から話を聞き、職場の中での苦労や努力を聞くことができまし

た。まず、皆さんが知っている通り、消防は色々な面で体力が必要です。そのため、消防士になるためには技術や体力が大切になってくることを話を聞いた時に知りました。その時、消防士になる前から、それなりの覚悟がいらっしゃるんだなと、それが最初に思っただことでした。色々な消防士の仕事の中でかっこいい所は映画のシーンとかでもある火災現場で救助をしている場合ではないのかなと思います。そ

んを救出活動の大変さを消防署で体験させて
いただきました。それは、防火衣、空気呼吸
器を着装し、煙の中を移動する濃煙体験です。
内容は、煙の中で出口を探るといったもので
した。

その日の午後の暑い時間にその活動が行わ
れました。実際の火事現場と同じ服装をしま
した。しかし、火から身を守る防火衣は、夏
の暑さで中はサウナのように温まっていますし
た。さらに、呼吸を確保する空気呼吸器はホ

ンベがあり、それを背負うとずっしりと肩が
重くなりました。消防士でも倒れる人がいる
そうです。準備が整うと、二階に上がり、自
分ともう一人がペアで、ある部屋に入りました。
た。すると、周りが2mくらいの範囲しか見
えませんが、出口というか、どのくらい部屋は
広さがあるのかも分からず悪戦苦闘しました。
中心付近は危ないから壁につかまって行くとい
いよ、と中にいた消防士の人から言われまし
た。移動は赤ちゃんのはいはいみたいな感じ

で、また赤ちゃんを三人分くらい背負ったよ
うに重い呼吸器具もあり、防火衣は熱く、大変
でした。やっと出口が見つかって、防火衣や
ボンベを取った時の開放感はそのでしか味わ
えないものでした。

その後、話があり、集団行動についての話
でした。濃煙体験のペア行動は、消防の仕事
の中で特に大切に行っているものだからです。
火事の中で一人で行動するのは無理に近いら
しく、一人が倒れたりして、はぐれたら、救

出する人を助けるのに遅れが出ます。それだ
けではなく、現場の構造も知らないし、ペア
と助けを呼ぶ人を一人で助けるのは無理なの
でパニックになっ、てしまいます。すると、そ
こにいる全員の命が危険になる可能性もある
そうです。最悪の事態になっても、仲間を見
捨てないその信頼感にその話の中で感動しま
した。

自分にも学校や地域の人など周りにたくせ
んの人がいまいます。自分だけ良ければいいやと

か思ったりする時があって、それは周りにも
影響があることでもあるという。ことを頭に入れ
て、生活していきたいです。確かに体験中、
最初はなんか怖くて、アの人といたけど、暑
いし、重くてきつくなつた時、アの人のこ
とは頭になかつたと思ひます。でも普段の生
活でも周りに助けを求めている人がいるかも
しれません。そんな時、今、自分が何をすべ
きかし、かり周りを見て行動していき、たら、
学習して良かつたと思ひます。心から思ひます。か
もしたら、

せん。なかなか難しいことだけど、頑張つて
いきたいと思ひます。